

希望館スローリ



黎明号



発行：令和3年1月1日
社会福祉法人 希望館
理事長 松澤 斉
編集印刷：社会福祉法人希望館 広報委員会
住所：〒370-0046 高崎市江木町 1093-1
電話：027-322-4985
e-mail：kibokan@mail.wind.ne.jp



2021年 年頭のご挨拶

法人理事長 松澤 斉



皆様、明けましておめでとうございます。今年も変わらず希望館にご支援賜りますようお願い申し上げます。昨年の流行語大賞は「三密」でした。実際の所、一月の末から新型コロナウイルスに振り回され続けた1年でし。そしてそれは今も続いています。日本人にとっては特別な意味を持つお正月でさえも、三密を避け、極力おとなしく、お出かけ・旅行・帰省などにも神経をとがらせる日々が続いています。

希望館ではいち早くデイサービスを休止したり、ご家族の面会に制限を設けたりして、ご利用者様・ご家族様には、ご不便をおかけしましたが、おかげさまでお年寄りにも子どもたちにも職員たちにも、感染者が出ないまま新年を迎えることができました。近い将来必ず日常を取り戻し、「あのコロナの時期は大変だったよな」と思い出話にできる時が来ることを信じて、今しばらく世界中の人たちと一緒に闘いましょう。

最後になりますが、希望館の仕事をしてきている職員たちは、流行語の一つにもなったエッセンシャルワーカーと呼ばれる方々です。一部の職種を除けばテレワーク・在宅ワーク・時差出勤などができない職種の方々が、当然感染リスクは一般の方よりも高いとされています。希望館などの職種の方にも頭が上がりたくない思いですが、その中でも特に、施設に比べて感染対策がおよそなされていない利用者の自宅で、密を避けていては行えない仕事を担ってくれていたホームヘルパーさんという方たちがいます。皆さんぜひホームヘルパーさんという存在を知って、覚えてください。そしてどうか彼女たち褒めてあげてください。

そんなわけで、今年も希望館を宜しくお願い申し上げます。

六郷デイサービスにて餅つきしました

恒例の餅つきの季節がやって来しました。例年ですと、ご利用者と一緒に餅つきを行いましたが、このコロナ禍で自粛も検討しましたが、しかし、ご利用者も楽しみにしており、今年は職員がつき、振る舞う事としました。つきたてのお餅を食べ、コロナに負けない力をつけていただきたいと思います。

六郷デイサービスセンター課長 秋山 修次



トリック オア トリート

お正月ではありませんが、希望館で初めてのハロウィン行を企画開催しましたのでご紹介させていただきます。ご利用者様も職員共に仮装して笑顔がたくさん見られました。またなぜか、鎌が人気で実際に持って職員を叩こうと童心にかえる利用者さんもいて、大変盛り上がりました。

行事企画委員 須田 一輝



美味しく出来ました！

特養三階では、10月のおやつ作りで「やせうま」という手作りのお菓子を作りました。「やせうま」というのは大分県の郷土料理です。群馬県民には馴染みのない物ですが、黒ゴマきな粉をまぶしているのを見た目が少々悪くなってしまいましたが、素朴な味でご利用者からも好評の声を頂きました。外出が出来ない今のご時世だからこそ、室内でも楽しんで頂ける様に職員一同工夫を凝らしていきたいと思えます。

特別養護老人ホーム希望館 3F 松島 聖悟

～やせうまの由来について～

平安時代、京から落ちのびてきた若君がうばの八瀬に「やせ、うまうま」とおやつをねだり、八瀬が作りだしたところから「やせうま」と呼ばれるようになったとか。諸説ありますが・・・

編集後記

新年最初の広報紙は「黎明」という号名です。黎明には新しい事柄が始まるといった意味があります。コロナ禍の中様々な対応、生活様式などと新たな文化、時代の変化の中、皆で心合わせていきたいものです。

他にも「帰馬放牛」の案もありました。これは戦争が終わって平和になるたたとえという意味ですが、コロナが落ち着き今までの生活に戻る事ができればと思います。今年もよろしくお願いいたします。 広報委員 堀口 徹也

